令和７年度　地域連携推進会議　議事録

1，日時：令和８年 1月 22 日（木）11:00~12:30

2，場所：グループホーム tetote 小深町

3，参加者

利用者　１名

利用者家族　１名

地域の関係者　１名（民生・児童委員）

職員　１名（管理者・サービス管理責任者・生活支援員）

4，概要

会議（11：00～）

①議題

1,開会のあいさつ

2,出席者の紹介

3,地域連携推進会議について

4,運営状況

5,利用者状況

6,研修の実施状況

7,災害対策

8,事故、ヒヤリハット報告

②質疑応答・意見交換

施設見学（12：10～）

5，会議内容詳細

（ア）開会あいさつ

管理者：会議の目的、会議やホーム内で知り得た情報の守秘義務を説明。

（イ）出席者の紹介

管理者：各出席者の詳細を管理者から説明し、個別に自己紹介。

（ウ）地域連携推進会議について

管理者：地域連携推進会議の４つの目的と会議の役割について説明。

（エ）運営状況

①施設概要

管理者：精神および知的障害者グループホームとして令和３年６月開設、男性専用で定員４名。

②職員体制・サービス内容

管理者：管理者１名、サービス管理責任者１名（管理者が兼務）、生活支援員２名（内１名は管理者が兼務）、世話人４名、計６名で構成。

夜間は 365 日職員を配置しているが、日中は管理者（サービス管理責任者及び生活支援員）１名で支援を行っており、管理者が不在（外出及び公休）の時も

あり、緊急時及び災害時を想定すると24時間職員を配置していることが望ましいため、日中の職員配置の調整が課題。

6，利用者状況

①生活の様子

管理者：定員4名ではあるが、今月1名退去され現在3名の利用者様が生活をされている。新たな入居希望者もおり、体験宿泊を予定。
入居されている利用者は皆お互いに一定の距離を取りあい、他者とは深く関ろうとしないため単独行動が多く、ホーム内は静かな生活環境となっている。
日中活動として就労継続支援等の福祉サービスの利用や、障害者雇用や派遣会社で就労をしている。就労や通所、通院の無い日の日中は買い物以外の外出をする方が少なく、ホームの自室で過ごされている。

②利用者（会議出席者）の感想

利用者様：昨年の7月から入居し、初めてのグループホーム生活だったが、現在まで生活してみて、不便を感じることもなく過ごせている。職員がこまめに声をかけてくれ、相談があるときにはすぐに対応してくれるので助かっている。
他の利用者とはそれほど仲良くできているわけではないが、悪いとも思っていない。ホームの利用者は風変りな人が多いなという印象。

③地域とのかかわり

管理者：グループホーム開設から現在まで、隣近所等住民から不満やクレームが入ったことはなく良好な付き合いとなっている。町内にはご家族の中に障害のあるお子様がいるお宅が何件かあり、町内での障害者グループホームへの理解をいただけている。
回覧板を通して町内自治会による催しや集まりは把握しているが、利用者個人で参加を希望される方がほぼいないため、地域住民とのコミュニケーションの機会は乏しい。但し、地域住民は親切で好意的な方が多いため、町内は生活しやすい環境となっている。

7，研修の実施状況

管理者：法定研修として義務付けられているものでは、虐待防止・身体拘束適正化、衛生管理・感染症予防、BCP等があり、研修実施は年間予定表にならいながら実施している。近年ハラスメントに対する問題も増えているため、虐待研修の中で取り上げ、権利擁護・合理的配慮についてもあわせて研修している。法定となっていないものでも、事故防止・防犯対策や、スキルアップを目指すために、精神疾患や知的及び発達障害についての知識や支援技術を学ぶ研修も実施している。
職員の諸事情により、全員参加型での研修がほとんど実施できないため、管理者とのマンツーマン形式で実施しており、グループ討論ができないことが課題となっており、また同様に外部研修も管理者のみでしか参加できていない。
今後の職員全員参加での研修として、救急救命講習の実施を計画している。

8，災害対策

①BCP の策定状況

管理者：非常災害対策として BCP を策定し、備蓄品を整えている。また、研修や訓練の重要性を重く受け止めている。年に 2 回防災訓練を実施しており、併せて同日に BCP のシミュレーション訓練の実施としている。

ホームの所在する地域は海岸や池や河川がないため、ハザードマップでも津波や洪水等の水害のリスクが極めて低く、想定として地震、火災、感染症に対する対策が重要ではあるが、想定外にも対応できる準備は必要と考えている。

被災時の避難場所として、町内自治会で策定している避難ルールに従い、避難時は先ず一時避難場所の小深自治会館に避難し、現場の指示に従って指定避難所の山王小学校へ避難する。近隣には広域避難場所となる自衛隊の基地もあり状況判断によっては下志津駐屯地に避難することも可能。

ホーム独自での安全確保や業務継続が難しくなった場合には、他の法人の支援協力が必要となるため、サポートトライ株式会社の運営するグループホームのサポートヴィラ若松町と支援体制確保のための連携協定書を交わしており、互いの緊急時の支援協力体制を整えている。

②防犯対策

管理者：近年、福祉施設の中で利用者様に対して危害を加える事件をニュースで目にすることが増えてきている。施設関係者として現職の職員、退職し過去に勤務していた職員、全くの無関係な第三者、場合によっては空き巣の様な窃盗侵入、さらにはストーカー事案など、様々なパターンの対策を整え自衛できなければならない状況となっている。

法人内研修として、日中又は夜間の施錠管理、施設訪問者または電話受信での対応方法、利用者及び職員のプライバシー管理など、防犯対策の強化を図っている。

現在ホームには防犯カメラは 1 台も設置しておらず、検討中である。

9，事故・ヒヤリハット

管理者：今年度の千葉市障害福祉サービス課への届出事故は 1 件あり、内容は服薬支援時のミスで、預かり薬の確認を怠り一包化の日付を前後間違えて利用者へ手渡していたことと同時に、服薬後の飲み残し確認も怠り包みの中に 1 錠取り残され未服薬となっていた。

ヒヤリハット報告は 3 件あり、手渡し時の日付の確認忘れ（両日の中身は同じ薬のため誤服薬とはなっていない）が 2 件、

利用者との会話の中で、食堂に眼鏡を忘れて来室した利用者に対し、世話人が「眼鏡がなくてもみえるのでは？」と発言、利用者が侮辱とうけとり怒ってしまったことが 1 件だった。

事故やヒヤリハットがあった場合、再発防止カンファレンスを実施し、同時にマニュアルを見直し改善をはかっている。

10，質疑応答・意見交換

（ア）施設概要について

利用者家族：現在運営しているグループホームは１棟のみだが、増やしていくのか？

管理者：住居追加の計画はあるが具体的な話はまだ進んでいない。

（イ）運営状況について

利用者家族：以前は職員がすぐに退職してしまい入れ替わりが多い印象だったが、問題はないか？

管理者：私が管理者に就任した令和５年８月以前は、管理者・世話人ともになかなか定着しないことが運営課題となっていた。私の就任後は職員の教育及び育成に力を入れてきた。賃金のベースアップのための処遇改善加算の取得、支援技術向上のためのスキルアップ研修、職場環境や勤務条件の満足度や上司に対する評価等調査のための職員労働環境アンケートの定期実施及び全体ミーティングでの意見交換など、これらを実施することで、できるだけ不安なく安心して勤務していただけるように努めている。

私が就任した以降の２年６カ月の間に退職した方は、やむを得ない理由で退職となった前サービス管理責任者を除けば１名のみにとどまっている。

今後もより良いグループホームを目指し、職員一丸となって努力していく。

（ウ）利用者状況について

民生委員：ホームでの生活の中で不満や不便を感じていないか？要望はあるか？

利用者：入居前はグループホームがどんなところか不安だったが、実際に入居してみて特に不便を感じていないし、今のところ不満はない。想像していたよりも住みやすいと感じている。

（エ）地域とのかかわりについて

民生委員：町内自治会では様々なイベントを開催しているが、もっと積極的に参加されてはどうか？

管理者：地域住民との交流は重要であり、かかわりを深めたいと考えているが、イベントの開催日と職員の不在日と重なっていてなかなか参加できずにいる。また、参加費がかかる場合には利用者が参加を希望されないことが多い。

夏祭りや町内神社の初詣イベントには職員と利用者とで参加し楽しんでいる。

防災活動の「避難時安否確認タオル」訓練も参加させていただいている。今後も町内イベントには積極的に参加できたらと考えている。

（オ）虐待防止について

利用者家族：ホーム内で虐待は起こっていないか？

管理者：当ホームで現在までに虐待防止委員会で虐待認定した事案はないが、虐待は常に隣り合わせにあることを意識して支援している。

虐待防止研修で障害者虐待の５類型をくりかえし学習し、また、虐待を起こしたり見聞きした場合は、役所への通報義務があることも指導している。

近年、ハラスメントが社会問題となっているが、当ホームでも課題となっている。コミュニケーションにおいて、受け手がどの様に解釈するかでハラスメントとなり得ることや、利用者の個別の障害特性を理解していなければトラブル

につながることを職員には強く意識するよう教育をしている。

民生委員：福祉支援職にあるものは常に意識して虐待防止に努めて欲しい。

（カ）BCP について

民生委員：災害時の備蓄や避難体制はしっかりとれているか？

管理者：災害時の備蓄品については、BCP 会議などでも話し合って計画しているが、大規模災害の実経験がないため、想定が難しいと感じている。

食料や水は現在 3 日分備蓄しているが、市役所の通達では 1 週間分の確保が望ましいとあるため、早急に改善する。

また、ホームには自家発電設備の設置が無い状況となっており、現状で被災した場合、職員の自動車が使用できる状況であれば応急的に発電が可能だが、確実な備蓄とするために自家発電設備も購入したい。

利用者家族：実際に被災したとき備えがなかったから仕方がないとはいかない。

利用者：安心して生活するためにしっかり備えて欲しい。

11，施設見学

管理者：ホーム内の食堂（兼事務室）、洗面浴室、トイレ、空室となっている 101 号室を案内し、利用者が実際に生活している居室の形状を紹介。

民生委員：建物自体は古いが、とてもきれいに整理されていて安心した。今後もしっかりと管理していって欲しい。

12，閉会のあいさつ

管理者：出席の謝辞を述べ、年 1 回以上の会議開催が義務づけられていることから、今後もご協力を賜りますようお願いした。

今回は構成員がすくなかったため、次回の会議には、市町村の障害福祉担当者（グループホーム等支援ワーカー）にも参加して頂く考えを説明し、閉会。